

ラン科植物の有毒性情報

夏井 高人

一般に、ラン科植物には有毒植物がないとされているが、有毒植物もあるようだ。以前、「シプリペディウム・レギナエの毒性」らん・ゆり 394号（2010年7月号）8～9頁で *Cypripedium reginae* Walter の毒性について情報提供したが、尹衛平・王忠東等『伏牛山薬用植物志 第4巻』（科学出版社、2012年）324～328頁に蘭科石斛属（*Dendrobium*）及び蘭科杓蘭属（*Cypripedium*）の有毒情報が掲載されているのを発見したので、紹介する。

1 蘭科石斛属（*Dendrobium*）

デンドロビウム・ノビル（*Dendrobium nobile* Lindley）について、「有毒」とし、血圧及び呼吸に抑制作用があり中毒症状を起こすことがあるとの趣旨の記載がある（同書 325 頁）。

日本で流通している石斛品種の多くは、カシオーブ（*Dendrobium Cassiope*; *Den. nobile* × *Den. moniliforme*）の交配品と推定されるので、特に注意を要すると思われる。

2 蘭科杓蘭属（*Cypripedium*）

クマガイソウ（*Cypripedium japonicum* Thunberg）について、「有毒」との記載がある（同書 327 頁）。ただし、有毒成分等の記載はない。

シプリペディウム・レギナエ（*Cypripedium reginae* Walter）とクマガイソウ（*Cypripedium japonicum* Thunberg）だけに限定されると考えるべき合理性は全くないから、アツモリソウ属全種について有毒性の検討が必要になっているのではないかと思う。